

カリキュラムに取り入れた「インターンシップ」の取り組み

広島県立総合技術高等学校
電子機械科／進路指導部 山田 訓 裕

1 はじめに

本校は平成17年度に設置された新設校で、多様な専門学科（工業系・商業系・家庭系の全6学科）を有する広島県で初のタイプの専門高校である。幅広い視野と能力を持ち、確かな勤労観・職業観を養い、社会へ貢献できる人材を育成していくという教育理念を掲げ、教育活動を行っている。キャリア形成の支援を目的とした本校独自の学校設定教科「総合」で、特に2学年次に実施するよう科目「インターンシップ」をカリキュラムに取り入れたという特徴を持つ。ここでは2年生全員に対して実施した取り組みを報告する。

2 本校の開校まで

開校1年前より、教育および産業界関係者からなる人材育成支援協議会が設けられ、「企業が必要としている人材像」、「確かな職業観・勤労観を育成するための企業と学校の連携の在り方」について協議された。マナー教育の重視、多様な資格指導を目指す教育、確かな勤労観・職業観の育成について提言があり、その中でインターンシップの積極的な取り組みと充実が求められた。その具体として教育課程の中に科目「インターンシップ」を取り入れることにし、他の新しい取り組みとともにホームページやパンフレットを通じて、広く県民に本校の教育内容が公約・PRされ、県内各地で学校説明会が持たれた。

3 実施までの準備

新設校である本校では、インターンシップ実施のために、科目「インターンシップ」の授業内容をゼロから作り出すことはもちろんではあったが、実習の受入先企業の確保に大きな課題があった。県内の工業高校で全員実施が難しいのは、この点をなかなかクリアできないのがひとつの原因でもある。本校ではカリキュラムの中に取り入れているので、希望者ではなく学年全員参加が絶対条件であるために、相当の困難が予想された。

そこで、まず校内にインターンシップ準備会を立ち上げ、教務主任・進路指導主事・学科統括主任・教科統括主任・教務部教育研究担当を責任者とし、各教科主任・各学科主任をその構成メンバーとした。その中で約1年後の実施に向け、進路指導部が中心となり受入企業の開拓に努めること、学習内容は教務部が中心となり作成すること、その他調整は準備会全体で行うこととした。1年目末の段階では、進路指導部の企業訪問により約70名分の実施の確約が取れたが、「実施の年に改めて検討させて欲しい」という企業が大半を占めた。

新年度の実施の年を迎え、準備会を新たにキャリア教育推進連絡会という名称に変更し、実施に向けて詰めの作業を行った。構成メンバーは準備会と同じである。科目「インターンシップ」の授業と並行に、前年度の進路指導部の企業訪問の記録をもとに引き続き、受入先企業の開拓にメンバー全員が東奔西走し、最終的には75社91事業所から受入れ可能の回答を頂き、6月初めまでに2学年全生徒238名分の受入先を確保することができた。

校外実習のためには校内の全教職員の協力が必要なため、6月末に教職員対象の研修会を行い、さらに引率教員と生徒との打ち合わせも行き、万全を期した。

4 校内での学習

科目「インターンシップ」は校内学習分2単位と実習分1単位とし、計3単位とした。校内学習の授業内容の概略を以下に示す。

第1章 はじめに

私たちの学校について知る、広島県の産業について知る

第2章 インターンシップに向けて

インターンシップの目的、自己を理解し職業を考える、社会人のマナー、事前の準備（実習先の企業研究、担当者への電話連絡・確認等）、実習に備える（自己紹介カード、実習日誌、通勤方法等）、引率教員との打ち合わせ

第3章 インターンシップの実施

直前学習、インターンシップから学ぶ（実習実施）

第4章 インターンシップを終えて

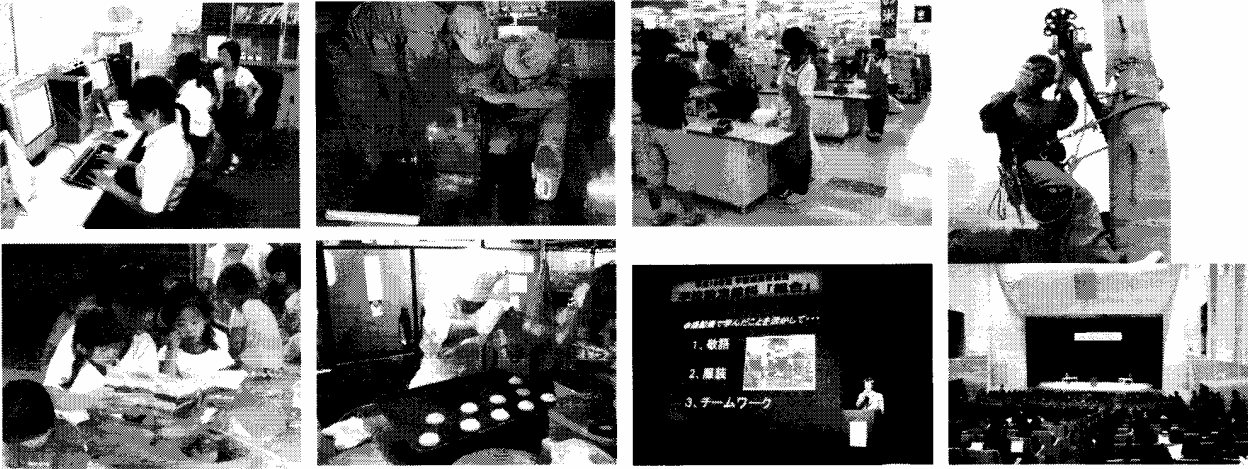
実習のまとめ（感想文、クラス単位の報告会、校外施設での全体発表会）

5 校外でのインターンシップ実習

夏季休業中を実習時期とし、原則5日間（7時間×5＝35時間：1単位分）行った。

4 就業体験実習と全体発表会の様子

受入先での生徒の様子および全体発表会の様子を示す。



6 実施後の評価

生徒に対して実習の事前・事後のアンケートで各項目4段階評価を行った。統計処理後、明らかな変化が認められた項目について、以下に示す。

- (1) インターンシップへの参加について
参加したい・参加して良かった
- (2) インターンシップで学んだこと
体力の必要性、職場の人間関係の大切さ、社会の厳しさ
- (3) 将来の職業選択に参考にする事
自由な時間を持てること、会社の知名度がある、日曜日が休みである
- (4) 働くことの目的について
社会に奉仕するため、経済的に自立するため、経済的に豊かになるため

また、お世話になった企業へも今後の参考のためにアンケートをお願いした。64社から回答を頂き、以下のよう回答があった。

- (1) インターンシップが高校生の職業選択や職業意識の育成に有効か
かなり役に立つ（42%）、役に立つ（58%）、否定回答なし
- (2) 実施時期
適当である（84%）、変更を希望（16%）
- (3) 実施期間
適当である（81%）、3日程度（14%）、さらに長期間（5%）

7 おわりに

計画時より予想はされていたが、全体から見て製造関連の企業数が伸びず、受入生徒数は全体の約34%と低迷した。本校の生徒の半数は工業系学科の所属であるので、この点で生徒の専門性や希望に必ずしも一致させることはできなかったが、総じて実習後の生徒アンケートからは参加できたことに満足したという結果が現われた。

本校開校以来、インターンシップの実施という公約（マニフェスト）を果たすため、1年間以上の準備期間と運営のために相当の労力を必要としたが、多くの企業に本校の教育理念を理解し協力して頂けたこと、そして校内において校長以下、全教職員の助けがあり実施することができた。

引き続き、このインターンシップを行っていくためには、継続した受入企業（特に工業系）の開拓と学校の実施に対する校内体制の確立、ならびに中学校段階でのインターンシップと比較してどう内容の差別化を図っていくかが課題として挙げられる。

これからも生徒の確かな勤労観・職業観の育成のために、この「インターンシップ」の取り組みを発展的に継続していきたいと考えている。